

「～てもらえる」文の働きかけ性

遅 皎 潔

キーワード: 働きかけ性、実現困難、強制的、依頼的、期待

要 旨

本稿は、働きかけ性という視点から、「～てもらえる」文の性格を明らかにすることを試みたものである。その結果、「～てもらえる」文には働きかけ性がないという先行研究の指摘に対して、実際には働きかけ性を持つものがあることが分かった。また、「～てもらう」文と比較すると、このタイプの「～てもらえる」文は、事態の実現が比較的困難であり、それに、その働きかけ性が強制的な性質が弱いという性格をもつものであることが明らかになった。さらに、「～てもらえる」文はこの働きかけ性の有無で、「依頼テモラエル」文(働きかけ性あり)と期待を含意する「望みテモラエル」文(働きかけ性なし)に分けられると言える。

1. はじめに

「～てもらえる」という形式は「～てもらう」の可能形であり、授受表現の中では周辺的なものである。このような周辺的な授受表現については、これまで十分な研究がなされているとは言い難い。この「～てもらえる」もとの形である「～てもらう」は働きかけ性が問題になる形式である。そこで、本稿においては、この「～てもらえる」について、働きかけ性という視点から考えることで、「～てもらえる」の性格を明らかにすることを試みたい。

「～てもらえる」もとの授受表現である「～てもらう」には働きかけ性が存在することが多くの先行研究で指摘されている。

(1) 田中さんに仕事を辞めてもらった。

これまでの授受表現の研究によると、「～てもらう」文には、(1)のような主語位置に置かれた受益者が動作主に働きかけを行って事態を実現させるという用法が存在する。山田(2004)では、「～てもらう」文のその特徴を働きかけ性と呼ぶ(本稿でも、

(1)に見られるような「～てもらう」の特徴を働きかけ性と呼ぶ)。つまり、この「～てもらう」は、働きかけ性が問題になる形式である。それに対して、山田(2004)において、「～てもらう」の可能形として使われている「～てもらえる」文には、上記のような働きかけ性がないと指摘されている。しかし、実際には、すべての「～てもらえる」文に働きかけ性がないというわけではないと思われる。そこで、本稿では、まず、働きかけ性がある「～てもらえる」文の存在を確かめた上で、「～てもらう」文と比較しながら、そのような「～てもらえる」文の特徴、また、そのような「～てもらえる」文における働きかけ性の特徴について、考察することにする。

なお、「～てもらえる」文は、「貸してもらえませんか?」のような会話における依頼文として、日常生活において多く使われている。しかし、このように話者が直接に話し相手に依頼することを表す文は、話者から動作主への働きかけを示す授受表現の平叙文とは、文の性格が異なるものと考えられる。そのため、本稿では、(1)のような平叙文としての「～てもらえる」文だけを対象とし、依頼文である「～てもらえる」文を対象から除くこととする。

2. 先行研究

2-1. 「～てもらう」文の働きかけ性について

まず、「～てもらう」文の働きかけ性について言及した研究を概観する。「～てもらう」文の働きかけ性の問題は、これまでの研究においても、重要な課題として多く注目され、盛んに論じられてきた。佐久間(1936)は、「～てもらう」受益文には主語から動作主への働きかけ性が含まれているとしている。一方、奥津・徐(1982)、仁田(1991)、益岡(2001)は、「～てもらう」文は働きかけ性を持つものと持たないものという二つのタイプに分けられると指摘している。さらに、このような研究を踏まえて、山田(2004)は「～てもらう」文を働きかけ性の程度によって、依頼的テモラウ受益文、許容的テモラウ受益文、単純受影的テモラウ受益文の3つの型²⁾に分類している。

2-2. 「～てもらえる」文の働きかけ性について

「～てもらう」の働きかけ性に関する先行研究は上記のように数多く見られるが、「～てもらう」の可能形としての授受表現である「～てもらえる」の研究は少なく、なかでも、働きかけ性についての研究は山田(2004)で、わずかに触れられているにとどまる。まず、山田(2004)は、以下の(2)をもとに、「～てもらえる」の用法について、働

きかけ性がないということを指摘した。

- (2)結婚前の私の姉の為に「女らしい用意もしてもらえなくてかわいそう」と誰かに義憤を洩らしていた。(土の器)

つまり、「～てもらおう」文は、話者(いわゆる主語位置に置かれた受益者)が動作主に對し何らかの働きかけを行っているものがあるのに対して、(2)のような「～てもらえる」文は、話者、あるいは話者側が動作主に依頼をせず、ある事象が起こるように働きかけたりはしていないとする。また、(3)を例に、テモラウ受益文は働きかけ性を含意することが多いため、「～てもらえる」は働きかけ性がないことを積極的に示すためにも用いられる用法があることを説明している。

- (3)援助はあくまで対象国の人々に喜んでもらえるものではなくては意味がない。

山田(2004)によると、(3)は、話し手が、対象国の人々が喜ぶということに對し、積極的な働きかけを行っていないとするものである。つまり、山田(2004)は、「～てもらえる」文は働きかけ性がないという本質を持つことから、さらに、働きかけ性がないことを積極的に示すために使われる用法があると考えているのである。

しかし、本当に「～てもらえる」文には働きかけ性が存在せず、また、働きかけ性がないことを積極的に示す形式と言ってよいだろうか。

3. 働きかけ性のある「～てもらえる」文およびその特徴

山田(2004)では、「～てもらえる」文には働きかけ性が存在しないとされているが、実際にはすべての「～てもらえる」文に働きかけ性がないわけではないと思われる。実際に、働きかけ性が見られたものとして、以下の(4)(5)があげられる。

- (4)「俺は、君達のような秀才ではないし、どうにか親父の会社にいれてもらえたが、それだけに、前途が多難だよ。困ったときには助けてくれよ」(「冬の旅」)
- (5)「おかげで、どうやらスポンサーがつきましてね。どうにか私の仕事も出版してもらえそうになって来ました。」(「あした来る人」)

(4)は、「秀才ではない」「俺」が実際にはなかなか仕事を見つけられない状況において、仕方がなく、何度も「親父」に頼んだからこそ、ようやく「会社に入れてもらえた」ということを示している。つまり、「親父」の会社に入ったという結果になるのは話者としての「俺」が何もしないまま、起こったことではなく、「俺」を会社に入れるように「親父」に何らかの働きかけを行って実現させたのである。また、(5)も「出版してもらえそうになった」のは自然に生じたことではなく、出版してもらうように何らかの手段を尽くしてスポンサーに頼んだことが原因となっていると考えてよい。つまり、話し手(側)がスポンサーに何らかの働きかけをしたことによって、何とか実現したのである。このことから、(4)(5)は働きかけ性を持つ「～てもらえる」文であると言える。

それでは、このような働きかけ性の存在が認められる「～てもらえる」文には、どのような特徴が見られるのか。

- (4)「俺は、君達のような秀才ではないし、どうにか親父の会社に入れてもらえたが、それだけに、前途が多難だよ。困ったときには助けてくれよ」 (「冬の旅」)
- (5)「おかげで、どうやらスポンサーがつかましてね。どうにか私の仕事も出版してもらえそうになって来ました。」 (「あした来る人」)
- (6)何度も頼んだので、ようやく佐藤さん行きつけの喫茶店に連れていってもらえた。

(4)と(5)は、ともに働きかけ性が見られるものであり、(6)は「喫茶店に行った」という事態が何度も頼んで得た結果と考えられるため、(6)も働きかけ性を持つ「～てもらえる」文であると言える。この(4)(5)(6)を観察すると、それぞれによる事態の実現性には類似する点がある。例えば、(4)と(5)には、「何らかの手段を尽くして努力するさま」を意味する副詞「どうにか」が、(6)には、「長い時間や労力を費やして実現・成立するさま」を意味する「ようやく」という副詞が使われている。これらの副詞は、(4)(5)(6)のような「～てもらえる」文における事態の実現がいずれも容易ではなく、困難であることを反映していると思われる。すなわち、働きかけ性を持つ「～てもらえる」文は、事態の実現の難しさを示しているという特徴を持つのではないだろうか。

このことについて、働きかけ性が伴う「～てもらう」文と比較して、考えてみる。次の(7)(8)の「～てもらう」文と(7)'(8)'³の「～てもらえる」文を対照しながら、分析したい。

- (7) (売り場でお母さんにおもちゃをせがんだ。)それで、新しいおもちゃを買ってもらった。
- (7)' (売り場でお母さんにおもちゃをせがんだ。)それで、新しいおもちゃを買ってもらえた。
- (8) (昨日、調子が悪くて、どうしても出勤できなかった。)そこで、田中さんに電話をして代わりに入ってもらった。
- (8)' (昨日、調子が悪くて、どうしても出勤できなかった。)そこで、田中さんに電話をすると、代わりに入ってもらえた。

(7)と(7)'は、ともに話し手がほしがったおもちゃを買ってもらうようにお母さんにしつこくねだって、その結果が実現したという状況を表している。「お母さんにせがんだ」という状況から、実際に、「買ってもらう」ように、話し手がお母さんに働きかけを行ったと考えられる。つまり、この両文とも、働きかけ性を持つものである。しかし、両文は同様にその事態の実現の結果を表すために使われているが、(7)と(7)'では、表している意味に違いが見られる。(7)の「買ってもらった」は「お母さんにせがんだ結果、買ってもらうようになった」という事態の実現を示している。それに対して、(7)'の「買ってもらえた」は、その事態が実現した結果を示した上で、「お母さんに何度もしつこくせがんで、ようやく買ってもらうことになった」という事態の実現の難しさも表している。また、(8)は(8)'とともに、「田中さんに頼んで、行ってもらう」場面を表している。そして、「田中さんに電話をして」頼んでおり、両文とも働きかけ性があるものである。しかし、「～てもらえる」が使われた(8)'は(8)と比較すると、事態が実現したのは容易ではなく、より頑張って田中さんに行ってもらうように説得したことによって成り立ったというニュアンスを示している。以上の観察によると、(7)と(8)のような「～ってもらう」文と比較するとき、(7)'と(8)'の「～てもらえる」文はより事態の実現の難しさを表していることが窺える。

ただし、「～てもらえる」文の中には、直接に事態の実現の難しさを示していないように思われるものもある。例えば、そのようなものとして(9)があげられる。

- (9) 一言友達に頼んだら、来てもらえた。

確かに(9)は、その事態の実現が困難であると解釈し難いとも言えそうであるが、次

の(10)のような「～てもらう」文と比較すると、どうだろうか。

(9) 一言友達に頼んだら、来てもらえた。

(10) 一言友達に頼んで、来てもらった。

(10)は(9)と対応とする「～てもらう」文であり、(9)と同様に一言頼んだことで、友達が来ることになったということを表している。しかし、両者を比べてみれば、両文における事態の実現の困難度には差があると考えられる。(10)は、友達に頼むことによって、友達が来たという結果になったことだけを表している。それに加えて、(9)の場合は、話者が友達に頼んでいた時点では、「友達が来る」という結果になるかどうかを心配するような過程の状況も含意している。すなわち、事態の実現に至るまでに、話者がその結果に対する心配していたという過程が存在する(9)は、単純に事態が実現した結果を表す(10)と比べて、より事態が実現することの難しさを示しているように考えられる。つまり、(9)は(10)のような「～てもらう」文と比較すると、その事態の実現が相対的に困難であることを表していると言える。

以上によって、山田(2004)が指摘したように「～てもらえる」文は働きかけ性が存在しないとは言えず、(4)(5)(6)のような例文においては、働きかけ性が存在することがわかった。そして、働きかけ性がある「～てもらえる」文の特徴として、「～てもらう」文と比べ、事態の実現が比較的困難であることがあげられると思われる。

4. 「～てもらえる」文の働きかけ性のあり方の特徴

前節で、「～てもらう」文と「～てもらえる」文の比較を通して、働きかけ性のある「～てもらえる」文には特徴があることが分かった。それでは、このような「～てもらえる」の働きかけ性とはどのようなものだろうか。「～てもらう」文の働きかけ性とはどのように異なるのだろうか。本節では、「～てもらう」文の働きかけ性と比較することによって、「～てもらえる」文における働きかけ性およびそのあり方の特徴を考察する。

4-1. 「～てもらう」文における働きかけ性

まず、「～てもらう」文における働きかけ性はどのようなものであるかについて、見ていきたい。「～てもらう」文の働きかけ性についての研究は、様々な立場でなされて

いるが、「～てもらおう」文の働きかけ性には、要求や命令のような強制的タイプがあるとする点では、共通している。例えば、これらの先行研究では、強制的タイプの働きかけ性を持つ「～てもらおう」文として、次の(11)(12)(13)のようなものをあげている。

(11) 私はきのう田中君に出張してもらった。(奥津・徐1982)

(12) そうであれば、代表の座をやめてもらおうしかない。(益岡2001)

(13) 駐在さん、早いとこ撮影して貰いなさい。もうすぐ波をかぶるから……。 (仁田1991)

奥津・徐(1982)は、(11)による要求の意味を持つ「～てもらおう」文⁴、すなわち、「出張してもらおう」ことは、実は「出張させた」のような強制的な使役文と同様であると指摘している。益岡(2001)によると、(12)の「座をやめてもらおうしかない」という事態は、依頼的な場面を想定しにくく、使役の状況において、その働きかけ性の強制的な側面が色濃く見られるとしている。また、仁田(1991)は、働きかけ性を持つ「～てもらおう」文が(13)のように命令や意志表現と共起できるという特徴があるとしている。そして、このような特徴から、「～てもらおう」文による働きかけ性が強制的であるという性質が窺える。

また、依頼の意味で使われた(14)(15)のような場合も多く見られる。

(14) 僕は花子にノートを貸してもらった。(益岡2001)

(15) 洋平に部屋に入ってきてもらった。(仁田1991)

(14)の「ノートを貸してもらった」ということは、花子に命令をして実現させることは考えにくく、実は花子に頼んだことで、実現したことである。つまり、この時の「僕」から「花子」への働きかけは確かに存在するが、それは命令などによる強制的なものではなく、依頼的なものである。同様に、(15)も、「～てもらおう」文の主体が「洋平」に、頼むといった働きかけを行って、実際の動きを実現させたことを意味している。つまり、この場合の働きかけ性は、強制的な性質が比較的弱く、依頼的なものであると考えられる。

従って、以上のことから、「～てもらおう」文の働きかけ性は、(11)(12)(13)のような強制的な意味に近いものと、(14)(15)のように、強制的な意味から離れて、依頼的な

タイプと言えるものが含まれていると言える。

4-2. 「～てもらえる」文の働きかけ性

それでは、「～てもらえる」文の働きかけ性にはどのような特徴があるのか。

(16) なんとかお母さんを説得して、新しいかばんを買ってもらえた。

(17) ぎりぎりの時間に提出しに行ったが、どうにか受け付けてもらえた。

(16)は、かばんを買わせるために、お母さんに働きかけをして、その結果、ようやく買ってもらったという場面である。副詞「なんとか」の意味から、その事態の実現が困難であることが考えられる。このような状況では、強制的にお母さんにかばんを買わせるような使役的な行為を行うことはないと言える。むしろお母さんに何度も依頼して、かばんを買ってもらったのである。また、(17)でも、受付の人に働きかけを行ったにも関わらず、受け付けてもらえるかどうかという難しい状況において、強制的に受け付けてもらうことは考えにくく、むしろ、いろいろ工夫して依頼したという場面が普通であると思われる。このように、「～てもらえる」文では、強制的な働きかけ性が現れにくい。つまり、その働きかけ性のタイプは依頼的であると言えよう。

それはなぜだろうか。3節で述べたように働きかけ性を持つ「～てもらえる」文は事態の実現の困難さを表している。そして、このような事態が実現することが困難である状況においては、強制的に働きかけを行いたいと考えられるからである。従って、「～てもらえる」文で現れる働きかけ性は、強制的な性質が弱く、強制的なタイプではなく、むしろ依頼的なタイプと見てよいだろう。

さらに、このことは、次の(18)(18)'からより明確になると思われる。

(18) 夫にむりやり買い物に行ってもらった。

(18)' ??夫にむりやり買い物に行ってもらえた。

(18)'' 夫に(頼んだから)買い物に行ってもらえた。

「強引に夫に買い物を行ってもらう」場面を考えれば、(18)が自然に使えるのに対して、「～てもらえる」に置き換えた(18)'は不自然になる。だが、もし「強引に行ってもらう」場面ではなく、「夫に頼んだ」という状況であるとすれば、(18)''は言いやすくな

と思われる。このことから、「～てもらえる」文の働きかけ性は、強制的なタイプと依頼的なタイプの両方を持つ「～てもらう」文と比較すれば、より限定的であり、依頼的なタイプにとどまっているものであると考えられるだろう。

以上によって、働きかけ性の度合いから考えれば、強制的なタイプも含まれている「～てもらう」文の働きかけ性と比べ、「～てもらえる」文で示された働きかけ性は、強制的な性質が弱く、依頼的なものに限って見られるということが分かった。

5. 「～てもらえる」文の2種

ここまで、働きかけ性のある「～てもらえる」文を考察してきた。ただし、このような働きかけ性が見られる用法は「～てもらえる」文の中では比較的限られている。実際には働きかけ性が見られない「～てもらえる」文も多くの場合で使われている。それでは、働きかけ性を持つ「～てもらえる」文は「～てもらえる」文全体の中でどのように位置づけられるのか。この問題を考えるために、働きかけ性のない「～てもらえる」文についても検討することが必要であると思われる。そこで、働きかけ性のない「～てもらえる」文がどのようなものであるかということについて、以下の例文をもとに考える。

(19) 中学時代、私たちは田中先生に英語を教えてもらった。

(19)' 中学時代、私たちは田中先生に英語を教えてもらえた。

(19)(19)'は、ともに「私たち」が中学時代の追憶にふけている場面である。授業を教えることは学校の先生の務めであり、決まっていることである。先生に頼まなくても当然教えてくれると考えられる。すなわち、(19)(19)'のいずれも働きかけ性がないものと言える。だが、この両文は全く同じものではない。「～てもらう」文としての(19)は、「私たち」が「先生に英語を教わった」という恩恵を受けた意味を表している。それに対して、(19)'は単に「先生に英語を教わった」という恩恵が与えられたことを示すだけでなく、田中先生のような優秀な先生に英語を教わることが実際に心の中で望んでいたことであり、「私たち」が期待していたとおり実現することができたという意味も示している。つまり、(19)と比べれば、(19)'のような「～てもらえる」文は、田中先生が私たちに英語を教えるということへの期待があったことを示すように使用されているのではないか。

さらに、このような意味特徴は、次の(20)と(20)'との比較からもわかる。

(20) 思いがけず、先生にほめてもらった。

(20)' 思いがけず、先生にほめてもらえた。

先生に依頼してほめてもらうということは、普通はないため、(20)と(20)'も働きかけ性がないものである。そして、「思いがけず」という表現によって、(20)と(20)'による「ほめられた」という事態は全く主体の予想外な出来事であると判断できる。このような状況で、(20)は、意外な出来事である「先生にほめられた」という事態から恩恵を受けたことを示すものと考えられる。しかし、(20)'は、(20)と同様に恩恵を受けたことを表した上で、さらに、このような話し手自身に利益を与えられること（「先生にほめられる」こと）が話し手の期待していたとおり実現したということを示している。すなわち、「先生にほめられる」という事態の発生がいつになるのかは予想していたが、話し手がこのような自分に利益をもたらす機会を期待していたことが窺えるのである。

上記の分析から、働きかけ性が見られない「～てもらう」文と比べ、「～てもらえる」文は、主体がその文に関わる事態に対して、期待する意味を含意することが分かった。

ただし、期待を含意するという意味特徴は単に働きかけ性のない「～てもらえる」文だけに見られるものではなく、「～てもらえる」文全体の性格として見なすべきであると思われる。このことは、事態を実現させるために主体が積極的に動作主に働きかけを行う用法を持つ「～てもらえる」文に対する考察から明確になる。例えば、次の(21)の場合にも話し手による事態の実現に期待しているという意味が含まれている。

(21) 「俺は、君達のような秀才ではないし、どうにか親父の会社に入れてもらえたが、それだけに、前途が多難だよ。困ったときには助けてくれよ」。 ((4)の再掲)

(21)は、話し手が「会社に入れてもらう」ために、積極的に「親父」に働きかける行為を行ったことを表している。このように主体が事態の実現に向けて、積極的な働きかけを行ったという状況から、実際に、(21)のような働きかけ性を持つ「～てもらえる」文も主体の事態が実現することへの期待を含意していると考えられる。

以上のように、「～てもらえる」文は、大きく働きかけ性を持つタイプと持たないタイプの二つに分けられることになる。働きかけ性のある「～てもらえる」文は、その働きかけ性において、強制的な性質が弱く、依頼的であるという特徴を持つものということになる。そこで、このタイプのものを「依頼テモラエル文」と名付けることにする。そして、このタイプの「～てもらえる」文は、事態の実現が比較的困難であるという特徴を持つものと言える。一方、働きかけ性を持たない「～てもらえる」文は、主体の事態の実現への期待を含意するという特徴を持つものである。このタイプの「～てもらえる」文を「望みテモラエル文」と呼ぶことにする。このように、「～てもらえる」は大きく「依頼テモラエル文」と「望みテモラエル文」に分けられるといえる。以上のことを簡単にまとめると、表1で示される。

表1

「～てもらえる」 文の類型	働きかけ性 の有無	特徴	「～てもらえる」 文の性格
依頼テモラエル文	○	a. 働きかけ性は強制的な性質が弱く、依頼的である。 b. 事態の実現が比較的困難である。	期待を含意する。
望みテモラエル文	×		

「○」:有 「×」:無

6. おわりに

以上、本稿は、主に「～てもらえる」文の働きかけ性、すなわち、授受表現としての性質について考察を行った。一方で、「～てもらえる」は「～てもらう」の可能形であり、可能表現としてとらえることができるものでもある。しかし、今回は、可能表現としての「～てもらえる」の性質の考察までには至らなかった。それでは、このような可能表現としての「～てもらえる」は、いかなる可能表現であるのか、また、可能表現の中でどのように位置づけられるのか。これらのことは、今後の課題としておきたい。

注

- ¹ 山田(2004)は、働きかける意図と実際の作用の観点から、テモラウ受益文の働きかけ性を規定している。そして、働きかける意図と実際の作用の両方を持つ場合と働きかける意図だけを持つ場合の二つの型を働きかけ性がある文と認めている。しかし、働きかける意図のみを持つ型は、許容的であり、積極的に働きかけを行うことがないものであって、働きかけ性があるものとは言い難い。そこで、本発表は、山田(2004)による働きかける意図と作用の両方を持つ用法のみを働きかけ性と見なすことにする。
- ² この3つの型は、働きかける意図と実際の作用という観点からの分類である。働きかける意図を持って作用を及ぼす用法を「依頼的テモラウ文」、働きかける意図も作用もない用法を「単純受影的テモラウ文」とし、積極的な作用を及ぼさないが、事態の出来もしくは持続の方向性を阻害しないという意図のみを持つ用法(すなわち、積極的に働きかける意図を持たない用法)を「許容的テモラウ文」とする。
- ³ 「～てもらう」文はテ節を伴うのに対して、「～テモラウ」文は伴いにくい。同様の意味はト節が伴うことによって表される。そこで、(8)'のようなト節を伴う文で検討することにする。
- ⁴ 奥津・徐(1993)による要求の意味を持つ「～てもらう」文は、本稿で言う働きかけ性を持つ「～てもらう」文と見なすことができると考えられる。
- ⁵ 「依頼的テモラウ文」は、事態の実現の難しさを表すものであるが、これに対して、「望みテモラウ文」は、その特徴を持たないものと思われる。それは、「望みテモラウ文」は、事態の実現が容易であることを示すものもあるからである。
- (a)「会社の面接へ行ったら豪華な食事へ連れていってもらえた」とか聞いたことがあります、本当なんでしょうか。
- (a')「会社の面接へ行ったら豪華な食事へ連れていってもらった。」とか聞いたことがあります、本当なんでしょうか。
- (a)と(a')による事態は突然の出来事であり、両者はともに働きかけ性のないものと思われる。(a')と比較しても、(a)は「面接に行っただけで、豪華な食事に行くことができた」という何の努力もせず、簡単に実現したニュアンスを示していると思われる。

参考文献

- 庵 功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘(2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワック。
- 林 青樺(2007)「現代日本語における実現可能文の意味機能」『日本語の研究』3(2), pp. 31-45.
- 益岡隆志(2001)「日本語における授受動詞と恩恵性」『言語』30(5)大修館書店, pp. 27-33.
- 守屋三千代(2003)「受け取りの授受動詞と可能表現」『松田徳一郎教授追悼論文集』研究社, pp. 261-273.
- 仁田義雄(1990)「働きかけの表現をめぐる」『国語論究2文字・音韻の研究』明治書院, pp. 369-406.
- 仁田義雄(1991)『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版.
- 奥津敏一郎・徐昌華(1982)「『～てもらう』とそれに対応する中国語表現-“请”を中心に-」『日本語教育』46, pp. 92-104.
- 佐久間鼎(1936)『現代日本語の表現と語法』厚生閣.
- 山田敏弘(2004)『日本語のベネファクティブ-「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法-』明治書院.

用例出典

【CD-ROM版新潮文庫の100冊】(新潮社,1995)

【インターネット図書館「青空文庫」】(はる書房,2005)

(出典が示されていない例は発表者による作例である。)

—東北大学大学院生—